

発行所(郵便番号100)  
東京都千代田区丸の内2-4-1  
丸の内ビルディング617号室  
社団法人スウェーデン社会研究所  
Tel (212) 4007・1447  
編集責任者 岡 沢 憲 夫  
印刷所 関東図書株式会社  
定価200円(年間購読料参千円)  
1991年3月25日発行  
第23巻第3号  
(毎月1回25日発行)  
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.23 No.3

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
Marunouchi-Bldg., No.617, Marunouchi, Chiyodā-ku, Tokyo, Japan.

## スウェーデンとバルト三国

Sweden and The BALTIKUM

北海道東海大学教授 武田 龍 夫

Prof. Tatsuo Takeda

バルト三国はその地政的位置と、小国であるが故に、ロシア、ポーランド、ドイツ、スウェーデンなどの大国間の斗争下で変轉の歴史を宿命づけられる悲劇の運命を有してきた。この歴史的過程の下でロシア及び西欧、北欧の宗教、文化、芸術の顕著な影響を受けることにもなった。ここに現在のバルト状勢の背景がある。今、彼らはかつてロシア革命を契機として独立したように、ペレストロイカ革命を機会に再び、わずか二十年で奪われた過去の独立回復への悲願を達成しようと努力している。それは五十年にわたるソ連体制の桎梏の下で抑圧されてきたナショナリズムの烈しい噴出の姿である。

さてグスタフ・アドルフ二世がドルパート大学を建設した時代から、いやバイキング時代の昔から、スウェーデンはバルト地方と密接な連帯の関係をもってきた。とりわけて第二次大戦後ソ連軍の侵入に伴い、約十五万人のバルト三国人が国外に亡命、その多くがスウェーデンに逃れた。彼らはバルトスウェーデン人組織をつくり、ソ連からの要人公式訪問のような際には、奪われた祖国返還の抗議デモや集会を開いて、ソ連本土に併合された故国の同胞たちの怒りと悲しみを表明してきた。またバルト筋によるソ連内政情報ルートは西側にとって貴重な貢献でもあった。

かかる背景の下に、今リトアニア、ラトビアへの武力行使事件をみて、直ちにストックホルムで一般市民及びアンダソン外相、各党々首が参加する大規模な抗議集会が開かれた。

三国の独立宣言以来すでに北欧、バルト三国間

の協議、人事交流は活発化しているが、この二月にはスウェーデン議会代表団が三国を訪問する予定である。また一月末ストックホルムを訪問したエストニアのメリ「外相」は、バルト状勢についてスウェーデン政府に説明、スウェーデン政府、国民の支持、支援に謝意を表明するとともに、「バルト問題はもう一つのクウェートである」ことを指摘し、これに対しアンダソン外相は欧州安保会議でバルト問題を取り上げる外交努力を約束、外交諮問委員会(与野党外交協議会)は、「民主的に選ばれたバルト三国議会は尊重されねばならない」との声明を発表した。またスウェーデンを中心として、北欧三国とバルト三国との経済協力圏構想の検討も着手されている。

バルト問題はペレストロイカソ連政治改革の動向を左右する重要な指標の意味をもつものであるが、それはまた西側の価値観を共有する民主主義国の平和と人権がかかっている問題でもある。北欧特にスウェーデンの懸命の支援姿勢はこの意味で理解されよう。(二月一日記)。

### 目 次

スウェーデンとバルト三国…武田 龍 夫… 1
日本におけるオンブズマン制度の導入以後5ヶ月 ……………川野 秀 之… 2
みたびヘルマン・トロッチックについて ……………小野寺百合子… 3
日瑞基金創立二十周年記念式典開催 SIP ニュース…………… 5

# 日本におけるオンブズマン制度の導入以後5カ月

Five Months since the Introduction of Japanese Ombudsmen

玉川大学教授 川野 秀之  
Prof. Hideyuki Kawano

中野区の福祉オンブズマン制度が昨年10月、川崎市の市民オンブズマン制度が昨年11月に導入され、すでに5カ月過ぎた。その間の状況について、まとめてみよう。

本年2月6日、川崎市主催の第4回「地方新時代」シンポジウムが開催され、そのまとめとしてのホット・コーナーとして「自治体のオンブズマン制度と今後」というパネル・ディスカッションが行われた。関東学院大学の鳴海正泰教授の司会で、参加したのは川崎市市民オンブズマンの大西千枝子さんと中野区福祉サービス調整委員の二里木孝次郎さん、それに私の3名であった。1時間20分という短い時間であったが、お二人の報告によって現状の報告がはじめて公表されたことは意義深いといえよう。

まず川崎市の市民オンブズマン制度についてである。既報したように、川崎市では、1989年の12月から制度研究委員会を発足させ、篠原一成蹊大学教授を委員長とし、岡沢憲美本研究所常務理事（早稲田大学教授・社会科学部長）などを中心メンバーとする委員会が90年5月報告を市長に提出した。そして7月初め市議会は全会一致で条例を可決、市民オンブズマンは11月1日から発足した。

市民オンブズマンは3名からなり、杉山克彦元東京高裁長官（代表）、菅野芳彦中央大学教授（元川崎市教育委員長）、そして大西千枝子弁護士との3名が選任された。その組織は、各オンブズマンにそれぞれ2名ずつ、計6名の専門調査員と市職員6名からなる事務局から構成されている。

90年10月1日発足した中野区の福祉オンブズマン制度は、正確には福祉サービス調整委員と呼称され、4名の委員からなる。その構成は、石川稔上智大学教授（民事訴訟法）、岡田久恵弁護士、元都職員の山下清平、元読売新聞記者（元区監査委員、区個人情報保護審議会会長）の二里木孝二郎の4名である。問題は二里木氏もシンポジウム

で強く主張していたように、専任のスタッフがいないことである。

次に申立ての状況についてであるが、川崎の場合、1月末までの3カ月間に80件の申立てがあり、その内、文書で回答されたものがこれまでに6割、関係部局に是正勧告を出したものが2件である。また発足当初は事務所に店頭した申立てが多かったが、徐々に郵送によるものが増加する傾向にある。内容は、建築確認・環境・教育・公共施設などに関係するものが大半である。また是正勧告としては、マスコミでも報道された体罰・いじめの問題に関するものがあげられ、これは現在教育委員会で対応中であり、その結果はいずれ公表されると述べられた。なお興味深い点は、福祉サービスに関する申立てがまだ1件もないことである。

それに対して中野区の場合は、福祉サービスに限定された制度であるので、4カ月間に12件の申立てがなされ、その内9件に回答がなされた。また是正意見は2件出された。申立ての内容で、重要なものはホームヘルパーの派遣が足りない・少ないという申立てである。これは、特別区全体の事業としてホームヘルパーの団体と契約を結び、区側は必要な者に利用券を発行して、必要な時に来てもらうという制度であるが、基本的にホームヘルパーの絶対数が不足しており、目標通り必要な時にいつでも来てもらうという状況は実現していない。また区からの補助額がそれほど高額ではなく、より高い額を支払う一般の契約のほうを優先する傾向も見られる。そこでオンブズマンとしては、全体で契約している以外の団体とも区独自で契約を結び、来てくれるホームヘルパーの数を増やすように是正意見を出し、実行に移された。

申立ての処理については、双方とも順番に均等に案件を担当しており、特にその内容によって担当者を分けることはしていない。また全体の合議については、川崎市では月に1～2回、中野区では2カ月に1回（ただし制度の改善意見は全員の

合議)とされている。

参考文献『望星』1990年7月号所収の宇都宮深志、「日本政治の現状とオンブズマンの必要性」、「オンブズマンとは何か」、川野秀之、「日本型オンブズマンの提案」、柴田智子「九〇年秋始動！川崎市行政オンブズマンの試み」。篠原一「オン

ブズマン制度の出発」、『ジュリスト』1990年11月1日号。川野秀之、「民意の正確な反映としてのオンブズマンの効用」、『公明』1990年12月号。橋本定「川崎市市民オンブズマン制度」、『月刊自治研』1990年12月号。「資料川崎市市民オンブズマン条例」、『季刊行政管理研究』52号、1990年12月。

## みたびヘルマン・トロッチックについて

For the third time about Herman Trotzig

顧問 小野寺 百合子

Adviser, Mrs. Yuriko Onodera

私は今から20年ほど前の1972年、当研究所の月報Vol. 4、No 2に「ヘルマン・トロッチックとイーダ・トロッチック」という一文を書いた。イーダとはその晩年をストックホルムでよく会っていたし、娘のイネツとも仲よかったし、孫のウメ、ガビーとも親しいので、この家族が繰返し聞かせてくれた話を、私は歴史の考証もせずそのまま月報に載せてしまったのであった。私の迂濶さを深くお詫する。話というのは次の通りである。

イーダの夫ヘルマン・トロッチック(1832~1919)がイギリス船でスウェーデンから長崎へ来たのは1859年であった。長崎のグラバー商会に勤めた彼の許へは、長州藩の向学心に燃える青年侍たちが訪ねてくるようになった。中でも、熱心だったのが伊藤俊輔(後の博文)と井上聞彦(後の馨)で、是非ともヨーロッパへ渡航させてくれと彼にせがんだ。当時海外渡航は死罪に当ることを承知の上で、ヘルマンは同僚のイギリス人とともに、ある月のない夜2人を漁舟に乗せて出航間際のイギリス船にもぐり込ませた。こうしてヘルマンは伊藤と井上のロンドン留学を成功させたのである。やがて2人は外国の新知識を得て帰国し、伊藤は後に兵庫県知事に抜擢された。ヘルマンも長崎から神戸へ移っていたが、やがて神戸外人居留地の警察署長となり、一生を日本の役人として終った。これは伊藤のお礼であった。

この月報から15年も後になって、伊藤、井上のロンドン密航は長崎からではなく横浜からであり、同行は2人ではなく長州藩公認の5人であったこと、密航は文久3年(1863)5月12日、イギリスのジャディマジソン社の手引でチェルスウィク号

で決行されたことを知った。これがまぎれもない史実である。ところがトロッチック翁の孫たちは家族伝承の話を頑として信じ、「祖父母の伝記」を書くべく既にある出版社と契約したという。私はこの一家と親しいだけに史実に反する出版はしてもらいたくなく、説得に努力して取敢えず祖母イーダの「生花と茶の湯」だけを出させることでほっとした。

しかしこの姉妹は自説を主張するだけの根拠なるものを持っているのだから事はややこしい。それはMarquis Inouyeと署名入りの井上侯の大礼服の写真であって、駐日スウェーデン公使ワーレンベルィの手紙が添えられている。

スウェーデン公使館

東京1月26日1911年

神戸 トロッチック殿

私はここに井上侯のサイン入りの写真を貴殿に届けます。これを候は、貴殿が長崎で暗夜に舟を漕いで候を停泊中の船に乗船させた時の記念として、貴殿に差上げるように依頼されました。それで候は伊藤公とともに、後に有名になったヨーロッパ旅行を果しました。候は心から貴殿へよろしく、ご健康を祈ると云われました。 G. O. ワーレンベルィ

この手紙が存在する以上、姉妹が自説を曲げないのは当然である。だが私が今日まで伊藤公、井上侯の伝記をはじめ色々調べてみたが、2人の密航が横浜以外から出たという資料は無い。そこで一つ考えられるのは、伊藤公、井上侯に1863年のロンドン密航以外に別の密航を企てた事実があったかどうかということである。するとそれに当るかも知れない事実が見つかった。

横浜から出航した5人の密航者がロンドンに着いて勉強中の1864年、ロンドンタイムスに長州藩の攘夷論者等が下関で外国船を砲撃したという記事が出た。これを読んだ伊藤と井上は彼らを説得のためと、3人を残して帰ってきてしまった。それは1864年6月で横浜出航以来わずか1年1ヶ月しかたっていなかった。そこで1865年3月、伊藤、井上に高杉晋作の3人が千両を用意して、長崎からヨーロッパ行を企て、グラバー商会に頼んだ事実がある。そこまでは幾つかの文献に共通に見られるが、その先、

1) グラバーが留守だったので、トロッチックが独断で彼らを暗夜イギリス船に送りつけて、上海まで行かせた。グラバーは上海に居り、彼等を説得して長崎へ帰した。

2) 長崎でグラバーに説得されて彼らは出航しなかった。



ウメ・ラードブルク女史とガビー・ステンベルイ・コッホ女史  
(ヘルマン・トロッチックの墓前)

関西日本スウェーデン協会事務局長大島高男氏撮影

という両説がある。だがここにイギリス公使ヒューコッダツィの著書の中に次の記述がある。

3) 3名の日本人が旅券の交付を受けずに密航したことで、グラバーは長崎奉行所から詰問された。奉行所は問題の日本人の送還とグラバーに対する処罰を要求したので、グラバーは領事の懲戒処分を受けた。しかしグラバーが将来有望な若い侍たちの密航を斡旋したのはこれが初めてではない。1863年に伊藤、井上を含む5人の長州藩士たちのロンドン密航の際、横浜で渡英資金を融通した話は有名である。

私としてはこの問題に関しては諸説を羅列するにとどめコメントは差ししかえる。

ここで私は再び月報Vol. 21、No11に書いた「古い日瑞交流」の記事に戻り、以上の問題でCho

教授がトロッチック一家の伝承だけを論文に取上げられたことを遺憾に思うと、再度述べておく。

ヘルマン・トロッチックの神戸における業績については、幾つもの百科事典や神戸関係の書物の中に書かれているのでまとめてみることにする。

ヘルマンが神戸に移ったのは明治元年(1868)で、グラバー商会が新しく開港した神戸へ進出したときである。当時未完成の外国人居留地で外交事務を取り仕切っていたのは、新政府の外務局判事となっていた伊藤俊輔であった。1872年にグラバー商会が倒産して店を閉じるとヘルマンは神戸居留地監督官に起用され居留地の治安の責任を持つことになった。やがて居留地行事局長の職につき警察署長をも兼任し、「居留地行事警察規則」を起草して独自の行事警察署を開設して日本人の警察官を採用して大いに実績を挙げた。明治32年(1899)に国内の居留地がすべて日本側に返還された時、ヘルマンは30年間の警察勤務を無事に終えた。兵庫県は彼に警察顧問という肩書を与え新装成った明石派出所の二階を住居として提供した。彼は日本政府から勲5等双旭日章と、勲4等瑞宝章を贈られた。

彼が新しく日本で認識されたのは昭和52年のことで、兵庫県警察本部長やその他の県警察首脳によって、神戸外人墓地で「元居留地警察署長ヘルマン・トロッチックをしのぶ墓参会」が催されたときである。スウェーデン政府の代表を含むその墓参会の模様は神戸のテレビ局や新聞社によって報道され、彼の功績は県下の人々に広く知られたのであった。娘のイネツはそれよりも早く既に昭和49年来日し父親の墓まいりをした。最近では孫のウメとガビー姉妹が一昨年(2010)の養祖父の墓を訪れた(写真を別掲)。

#### 参考文献

- ・『維新の港の英人たち』、イギリス公使、ヒュー・コッダツィ著、中須賀哲郎訳(中央公論社)
- ・『兵庫警察の誕生』、草山巖(元兵庫県警察本部税務部参事)著、(慶応通信)
- ・『神戸外国人居留地』、ジャパン・クロニクル紙、ジュビリーナンバー、堀博、小出石史郎共訳、神戸新聞出版センター)
- ・『使徒たちよ眠れ』、谷口利一著(神戸新聞出版センター)

### 日瑞基金創立二十周年記念式開催

去る3月7日霞ヶ関三井クラブにおいて、日瑞基金創立二十周年記念式典が挙行された。

日瑞基金は、スウェーデン社会研究所開設の3年後の1970年に同研究所の姉妹機関として、主として自然科学の分野での両国間の学术交流の推進を目的として設立され、以来20年間その分野の情報交流に努め、その目的による研究員のスウェーデンへの派遣も計65名に達し、近時の国際情勢の推移に対応して実に目的達成に今後の事業の充実を期している。

当日は、スウェーデン大使、元駐瑞日本大使方のご出席もあり、約70名の方々のご参加を得て、盛況裡に挙行された。

## <SIPニュース>

### 工業連盟の専門家予想によると、北欧諸国の経済成長減速

北欧諸国の工業連盟が半年毎に発行するレポート「北欧経済展望」(Nordic Economic Outlook)12月の要旨は次の通り。

「今後1年、北欧地域は全体的には極めて低い成長しかあげられないであろう。ただし、ノルウェーとアイスランドはおそらく例外であろう。北欧諸国を主要市場とする同地域では、国内需要が相かわらず不振を続けており、成長率は、わずか0.3%程度となることが見込まれている。ドイツによる同地域からの大量輸入でさえ、米英からの需要の減退を埋め合わせることはできないだろう。

民間消費の成長は今後も引続き1.3%程度にとどまるものと見込まれるが、公共消費成長は0.8%と半減するであろう。固定投資も引続き下降し、1991年度の成長はマイナス2%となろう。輸出はわずか1.7%の増加にとどまるものと見込まれている。一方、輸入は停滞もしくはやや減少するであろう。市場価格での国内総生産(GDP)は1990年の成長率1.3%を下回る0.7%というわずかな増加を示すものと見込まれている。なお、同成長率はOECD諸国の見込み成長率の2分の1にすぎない。1991年度の工業生産は昨年度比で0.8%の落ち込みを示すものと見込まれる。また、消費者物価は昨年度成長をやや上回る7%程度の上昇を示すであろう。北欧地域の失業率はひき続き増え続け、昨年の4.5%から本年度は5.5%程度に上昇するであろう。

分析によると、1988年、1989年にはデンマーク、ノルウェー、アイスランドの成長率がとりわけ低かった一方で、フィンランドのGDP成長率が5%を超えたことが明らかになっている。1990年にはノルウェーの成長率が上向きを示した。因みに、現行年度に同国は石油輸出の8%の増加を計画しており、それがGDPの7~8%相当の黒字をもたらすことを見込んでいる。

デンマーク、アイスランド、ノルウェーのGDP成長はそれぞれ1.0%、2.6%、3.3%と算定されている。また、フィンランドは0%成長を、スウェーデンはマイナス0.4%の成長を見込んでいる。デンマークとノルウェーの見込み成長率が相対的に高いのは、主として、賃金上昇の抑制とそれによる国内生産者の競争力の改善を目的とする経済政策の成功の結果である。それに伴い、賃金コストは適度なペースで上昇し、貿易収支も急速な改善を示したといわれる。この反例がスウェーデンとフィンランドである。輸出黒字が減ると共に、利子支払いが高額かつ今なお増え続けていることから、経常収支が少なからぬ赤字を示し、経済政策の主要な関心事となっている。」 (SIP 26/91)

### 経済ニュース短信

公式報告によると、スウェーデン産業の10月の平均時間給は1989年度同月比で8%増74.40クローナ(1934.4円)であった。最高は鉱夫の賃金で14%増90.40クローナ(2350.4円)、逆に最低は繊維衣料産業の63.70クローナ(1656.2円)であった。なお、工業及び製造業の10月の労働者数は1989年度同月比で4%減の53万9,300人であった。 (SIP 10/91)

中央統計局の発表によると、スウェーデンの輸入価格は11月に1.1%の減少を示した。一方、輸出価格、生産者価格、国内市場価格はほとんど変化がなかった。なお、1989年度11月に比して、輸入価格、輸出価格、生産者価格は、それぞれ7.3%、2.5%、4.4%、5.2%の上昇を示した。(SIP 10/91)

ヴェッカンス アフェーレル指数 (the Veckans Affärer index)によると、ストックホルム株式取引所の株価は1988年度、1989年度にそれぞれ51%、24%の上昇を示したが、1990年度においては30%の下降を記録した。因みに、過去5か年間の同株式取引所の株価上昇率は81%であった。

株式の売上高は1990年度は昨年度比で17%減940億クローナ(2兆4,400億円)であった。同売上高が過去最も多かったのは1986年度で、1,420億クローナ(3兆6,920億円)であった。

主要な商業部門のうちで、1990年度に株価が上昇したのは化学工業だけで、建設会社や不動産会社は48%という最大級の株価の下降を記録した。また、最大の工業部門である機械技術工業の株価も33%という大幅な下降を示した。(SIP 13/91)

【ストックホルム発】 中央統計局の発表によると、スウェーデンの消費者物価は1989年12月から1990年同月までに平均10.9%の上昇を示した。因みに、1989年度の消費者物価上昇率は6.7%であった。すなわち、この10.9%という上昇率は1980年度来で最高の上昇率であった。主として、所得税改正の結果としての間接税増税の影響を除けば、純物価指数は7.3%の上昇を示した。因みに、1989年度は6.2%の上昇。(SIP 21/91)

### 時差ぼけの症状に関する研究プロジェクト

慢性的疲労、機嫌が悪い、胃の調子が悪い、本調子でない、といった感じは良く知られた時差ぼけ症状であり、航空機のパイロットやクルーにつきものだといわれる。これらの症状は避けられない職業病であるが、緩和できるかどうかを研究するために、スカンジナビア航空(SAS)のクルー及びパイロット協会と専門家よりなる研究チームが此の程、3か年の研究プロジェクトを開始した。なお、同プロジェクトの資金援助はSASとスウェーデン労働環境基金が行う。

本年度中は、約100人のパイロット及びクルーが研究目的で腕や足にマッチ箱位のサイズの検査器を取りつけるが、同ボックスは不規則な眠りや身体の不均衡状態を記録することができる。今回のプロジェクトに関してストックホルムのカロリンスカ研究所の眠りの研究家であるトルビョーン・オーケルステッド教授(Torbjörn Åkerstedt)は次のように語っている。「一般的な眠りや目ざめている時のパターンは既に知られているが、今回の研究の目的は常に時間帯を越えて旅行する人達にとって、眠りのパターンがどのようなものであるかといったことに関する明確な実像を把握することにある。

クルーのフライトスケジュールや勤務割簿をつくる際には、もちろん多くの要素を考慮に入れねばならないが、もしも、我々が合理的な労働シフトと現行の状況との間の明らかな食い違いを見出せば、スタッフの福利を向上させるような変化を提言できるのではないかと私は考えている。(SIP 030/91)

### お知らせ

～いま、スウェーデンを語る～

NHK放送出版協会より出版されている『NHK 社会福祉セミナー』の4月～6月号に、「いま、スウェーデンを語る」と題して、当研究所常務理事の岡沢憲美早稲田大学教授が連載を始められました。この内容は、昨年9月に5回シリーズで放映されたウィークエンドセミナーのまとめとして新たに書き下されるものです。この雑誌は1部670円(税込価格)。最寄の書店か直接NHK放送出版協会にお申し込み下さい。

事務局